

豚蛔虫雌生殖器の奇型例

問 川 迪 典 齋 藤 昭 三

慶応義塾大学医学部寄生虫学教室 (主任 松林久吉教授)

(昭和 32 年 3 月 23 日受領)

古くより人蛔虫及び之と同種と見なされ得る豚蛔虫の研究は幾多の人々により多岐多様に渡り行われている。殊に形態学的方面に就ては従来の方法では充分に研究し尽された感があるが、雌蛔虫生殖器奇型に関する報告は少いようである。

人(豚)蛔虫 *Ascaris lumbricoides* で 3 本の子宮を有する奇型例に関しては、H. Balss (1906) が一例を報告しているのみである。1 本の子宮を有するものに関しては、古く W. Schewiakoff (1894) が一例を報告し、高亀 (1939, '40) も同様 1 本の子宮を有するものを見出している。

衆知の通り雌蛔虫の生殖器は一对の細い糸状の卵巣に始り、輸卵管・受精囊を経て、そこで太さをまして一对の子宮になり、これが合流して 1 本の短い腔になり生殖口により外界に開いているのである。私たちは正常の雌蛔虫では一对あるべきこれらの生殖管が 3 本あると云う生殖器奇型の 2 例 (1955 年 7 月第 1 例・1956 年 1 月第 2 例) 及びこれらの生殖管が 1 本のみであるという生殖器奇型の 1 例 (1956 年 12 月第 3 例) を見出したのでここに報告する。

これら 3 例の奇型はすべて屠殺場で得た豚蛔虫 *Ascaris lumbricoides* から見出されたものである。

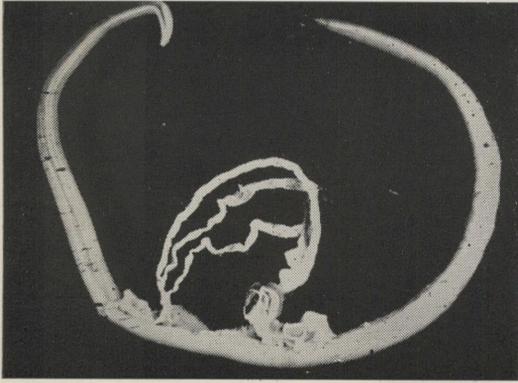
第 1 例・第 2 例の体長は夫々 20.5 cm, 23.5 cm で、生殖口の位置は頭端より夫々 8.0 cm, 9.6 cm であり、外見上何等正常のものと変りがない。腔も第 1 例・第 2 例共に 1 本で長さは 0.7 cm であり異常を認めない。この腔に正常体では一对の子宮が続くのであるが、第 1 例に於ては 3 本の子宮がほぼ同じ太さで而も同じ位置から分枝して連なっている (第 1 図)。第 2 例に於ても同様 3 本の子宮が存在したのであるが、その分枝方法に於て第

1 例と趣を異にしている。即ち腔に続いて先ず 2 本の子宮に分れ、その中の 1 本はそのまゝ後走し長さは 13.7 cm であり、他の 1 本の子宮は最初の分枝部より 0.7 cm 上方でもう一度 2 本の子宮に分枝している (第 2 図)。この 2 本の子宮は薄い膜で附着して後走して居り、長さは 2 本共等しく二度目の分枝部より 13.3 cm である。第 1 例・第 2 例共にこれらの 3 本の子宮の上部は夫々受精囊・輸卵管・卵巣と続いている。第 2 例に於て附着せる 2 本の子宮もその最上部では分離してそれより細い上部の生殖管に移行している (第 3 図)。第 1 例・第 2 例共 3 本の子宮は中に卵が充満して居り、とくに途中くびれて細くなっている所もなくほぼ同じ太さである。これらの子宮内卵を 1 本毎に鏡検してみたのであるがすべて受精卵であった。

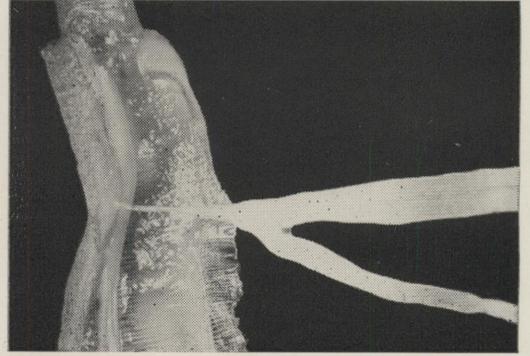
第 3 例に於ても外見上は正常のものと変りなく、体長は 20.3 cm であり生殖口の位置は頭端より 8.9 cm である。前述の如く生殖管は卵巣より子宮・腔に至るまですべて 1 本である (第 4 図)。本例に於ても腔には異常ないがやゝ長く 1.1 cm である。この腔に太さを増してそのまゝ 1 本の子宮が続いている (第 5 図)。子宮も体長に比しやゝ長く 28.9 cm であり、それに続いてそのまゝ 1 本で細い上部の生殖管 (受精囊・輸卵管・卵巣) に移行している。前 2 例と同様子宮内卵を鏡検してみたが、本例に於ては受精卵・不受精卵がほぼ半数ずつ混在していた。

このような雌生殖器奇型の出現頻度に関して統計的観察を行わないので明かではないが、当教室で私共が 1955 年 7 月より翌年 1 月迄 (第 1 例発見より第 2 例発見迄) の 7 カ月間に実験に供した成熟雌虫の解剖数は概算 2,800 ~ 3,000 条に及ぶものと思われ、その中 2 条に於て上述の如き 3 本の生殖管を有するものが見出され、更に第 2 例発見より第 3 例発見迄の 1 年間に於ける雌蛔虫の解剖数は概算 4, ~ 5,000 条に及び、その中 1 条に於て 1 本の生殖管を有するものが見出されたのである。

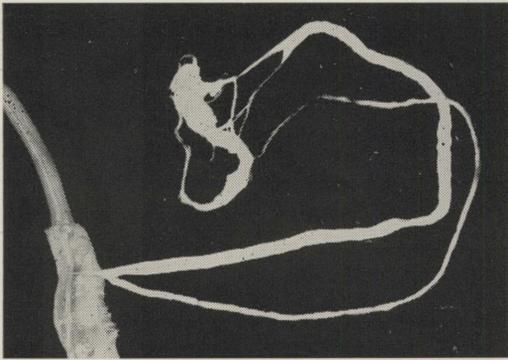
MICHISUKE TOIKAWA & SHOZO SAITO:
Three cases of abnormal structure of female reproductive organ of pig ascaris. (Department of Parasitology, School of Medicine, Keio University, Tokyo, Japan)



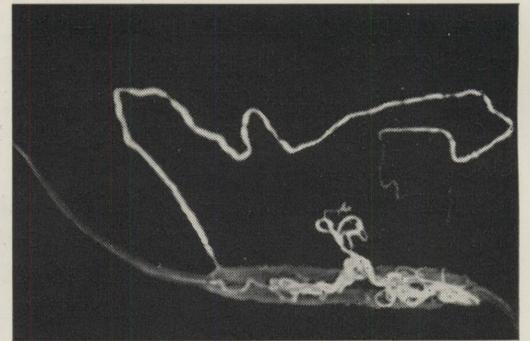
第1図 第1例



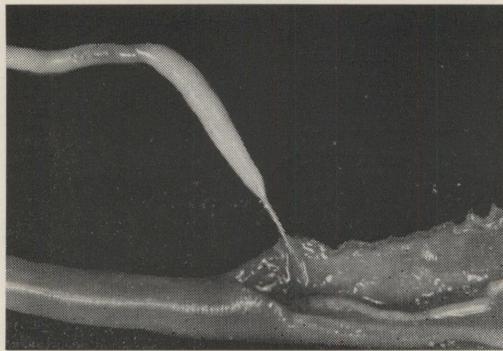
第2図 第2例



第3図 第2例



第4図 第3例



第5図 第3例

過去に於ける報告例の少いことも考へ合せて比較的稀なものであると思ひ、こゝに報告した次第である。

終りにのぞみ御校閲を賜つた松林久吉教授、浅見敬三助教授に深謝する。

文 献

- 1) Balss, H. (1906): Mitteilungen über einen abnormalen ♀ Geschlechtsapparat von *Ascaris lumbricoides* L. Zool. Anz., 30, 485-487. —2) Schewiakoff, W. (1894): Ein abnorm gebauter weiblicher Genitalapparat von *Ascaris lumbricoides* L. Centralblatt für Bakteriologie u. Parasitenkunde, 15, 473-476. —3) 高亀良彦(1939): 糞便中に於ける蛔虫排泄卵数と其の寄生母虫との関係に関する疑義に就て, 日本医科大学雑誌, 10, 1329-1358. —4) 高亀良彦(1940): 蛔虫陰門周囲の带状狭

窄に関する研究 (第1報), 日本医科大学雑誌, 11, 1583-1606.

Summary

During our study on ascaris eggs which we have obtained from uterus of pig ascaris, we happened to find out 3 female ascaris which had an abnormal reproductive organ. Two of them had 3 reproductive tubes which united into a vagina opening at the normal site of the body wall (Fig. 1, 2, 3). Remaining one had only one reproductive tube (Fig. 4, 5). In the former two cases, eggs in the uterus were found fertilized and in the latter case about a half of the eggs in the uterus were found fertilized.